

令和5年度第2回 小金井ボランティア・市民活動センター
運営委員会 議事録

1. 日 時 令和5年12月19日(火) 午後6時00分～午後7時33分
2. 場 所 社会福祉協議会 2階会議室
3. 出席者 運営委員(12名)

山路 憲夫 委員長 川畑 美和子 副委員長
加藤 弘子 尾崎 庸子 渡辺 一弘 竹村 雅裕
森田 真希 根本 礼太 中川 法子 海老原 康二
榎本 朝美 松嶋 有香 (オンライン参加)

事務局

中谷 行男 常務理事 室岡 利明 事務局長
小早川 良信 地域福祉係長 近江屋 哉子 主任
久保田 朱里 主事 新開 由季子

市民協働支援センター準備室

北脇 理恵 市民協働推進員

4. 配付資料

- 1) 令和5年度小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会(第2回)次第
- 2) 小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況
- 3) 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況(令和5年度4月～11月)
- 4) 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画(案)
- 5) 令和5年度精神保健福祉ボランティア養成講座「心の病って何だろう」チラシ
- 6) こがねい市協働講演会～災害に備えた～緩やかな連携 チラシ
- 7) ぼらんていあこがねい/市民協働応援ニュース令和5年8月～12月号
- 8) 市民社会を作るボランティアフォーラムTOKYO2024 案内資料
- 9) 令和5年度食事サービスを考えるつどい チラシ
- 10) 令和5年度地域福祉フォーラム 東京カ×無限大 チラシ
- 11) 市民参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 チラシ
- 12) パワーポイント説明資料

5. 議 題

- 1) 小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況について
- 2) 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について
- 3) 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画(案)について
- 4) 小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会運営委員任期について
※第9期ボランティア・市民活動センター運営委員会運営委員任期は令和4年1
月24日から令和6年3月31日まで
- 5) その他

6. 議 事

<開会>

委員長は令和5年度第2回小金井ボランティア市民活動センター運営委員会の開催に際して、松嶋委員はリモート参加であることを伝えた後に、議題を読み上げ審議を開始した。

山路委員長（以下委員長）

会議は公開とし傍聴を認めます。（傍聴人無しを確認）

それでは、議題に入る前に、配布資料の説明を事務局からお願いします。

事務局

最初に配布資料の確認をさせていただきます。（配布資料を確認）

<議題1 小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況について>

委員長

では議題1より、事務局からお願いします。

事務局

次第の資料とパワーポイントの資料に沿って説明いたします。

事務局

松嶋委員は、資料は確認できますか。

松嶋委員

当日資料と言うのはありませんが画面は見えます。あと、事前にメールで頂いた資料は見ています。

事務局

当日資料は、改めてお送りします。では、パワーポイントの資料で進めます。

進捗状況の中で、前回の委員会から動きがあった事業を中心に報告いたします。

まず、団体交流会について報告します。

令和5年9月30日土曜日に団体交流会というイベントを今年度初めて開催しました。

例年、市民活動まつりを実施してきましたが、いま休止している状況なので、団体どうしの繋がりを持てるイベントがあればということで開催しました。

ここ社協2階の会議室で開催しましたが、参加者は15名でした。

「小金井市にこんなあったらいいな！」というテーマで開催する事ができました。ほとんどフリートークで、いろいろな活動をされている方が集まって、かなり盛り上がりお話ししていただきました。自分たちの活動の紹介や、こういうのをやってみたいというご意見をいただき、また、終わった後も参加した方達が何人かお話しされ、そこで繋がりを持つたということがあり、来年度に向けても団体交流会を開催した際には、皆さんが集まってコラボして出会いがあるような場として設けていきたいと思っています。

先日、交流会にいらして出会った方がお二人、今回のような団体交流会をやってみたいと、いろいろなご意見をもってご相談にいらして頂きました。そういう皆さんのご意見を聞きながら、来年度に向けて企画を作って行きたいと思っています。

次に、「子ども・若者支援事業」についてお話したいと思います。

「子ども・若者支援事業」は初めて令和5年度に実施し、今年度は啓発事業として、令和5年10月2日月曜日に「子ども・若者の生きづらさを支える地域づくりを学ぶ」というタイトルで講演会を開催いたしました。講師として東京学芸大学こどもの学び困難支援センターの入江先生にいらしていただきました。29名の方に参加していただいています。

講義後にワークショップを行いました。そのグループの中の話が大変盛り上がり、いろいろな活動をしている方との出会いとか、こういうのがあったらいいなというお話が活発に出て、話し合う時間が短かったというご意見が非常に多かったので、令和6年度に向けて講座を開催する時は、もう少し話し合える時間を設けたいと思っています。

次は、「子ども・若者支援事業」に付随する事業として、社協のいろいろな部署の職員が集まって意見交換会を開催しました。こちらのテーマとしては、子ども・若者が抱える課題や業務で相談を受けた事例を中心にみんなで話し合いました。それを受けて、こんなサービスとか居場所とか、こんな人材がいたらいいなというようなことが出ました。7月18日と8月9日の2回開催しています。高齢者分野に関わっている職員や、様々な貸し付けの分野の職員が集まって、いろいろな話を聞く事ができました。その中で抽出したものを来年度の事業に活かしていきたいと思っています。

事務局

次に「夏の体験ボランティア」について説明させていただきます。令和5年6月30日～7月1日に「夏の体験ボランティア」事前ガイダンスを開催し、体験期間として令和5年7月24日～8月25日まで開催して、参加者は延べ77人でした。受け入れ団体数は32団体で特養や保育園などの施設に受け入れていただきました。

また今年も、「夏のお便りボランティア」も同時に開催させて頂き、475枚のハガキを書いて頂いて一人暮らしの高齢者の方に配布しました。

次に「ディスレクシアボランティア啓発事業」ですが、令和5年の5月22日と29日に講座を開催して、27名の参加でした。今回の講座と昨年度のディスレクシアの講座に参加していただいた方を対象にディスレクシアの交流会を社協の2階で開催し、7月24日から11月20日まで（毎月1回）開催し、毎回5名から10名が参加して、ディスレクシアの支援団体や家族会の設立を目指しているところです。社協がいま伴走支援中で団体をどうやって進めていくかを検討しています。

次は福祉マルシェについて説明します。

事務局

「小金井市社協福祉マルシェ」も今年度初めて事業として実施しています。先月11月23日木曜日（祝日）に開催しました。社協の駐車場を使いテントを張り、福祉作業所の方や農協の方、和菓子屋など、いろいろなお店に出店して頂いております。

販売については10団体が、あと広報としていろいろなチラシやパンフレットを置きたいという団体が3団体。また、ボランティアセンターの活動室の品物を販売する活動もしました。

当日は、子供達のフードドライブ事業も実施しており、10カ所から持込がありまして、すべてを6カ所の子どもの居場所をされている団体に配布しております。

皆さんからは、来場者は数えていなかったものの売り上げの方はかなり良かったとのことでした。通りすがりの人もどんどん入ってきたりして、賑わっておりました。また来年度に向けて、今年の反省点を踏まえて実施して行きたいと思います。今回は社協の駐車場を会場としての開催でしたが、次年度は少し市内での開催場所を増やして行けたらいいのではということで検討しております。

次に地域福祉ファシリテータ養成講座の説明をいたします。

令和5年9月21日から令和6年の1月18日まで、全11回ルーテル学院大で講座を実施しています。小金井より9名が参加し、1月18日の発表に向けて、小金井の参加者と武蔵野市、三鷹市、調布市の参加者の方とで、調整を重ねている状況です。

それでは次に、「ふれあい・いきいきサロン助成事業」ですが、その目的というのが、高齢者、障害のある方、子育て中の親子と、退職した仲間づくり、孤立予防、見守りを目的としたもので、地域の繋がりを作る市民活動のひとつです。今年度45団体が登録しまして、そのうちの35団体が社協からの助成金を申請したのち、受け取る形になっております。実際にお渡しした額は58万7千200円です。この中には、新しくサロンを立ち上げた4団体に対し新規立ち上げ資金が1万5千円づつ入っています。今年度、「ルチア」、「GT青空ラジオ体操」、「小金井国際支援協会子ども学びサロン」、「お日様心の保健室」の4つのサロンが立ち上がっています。

社協としてサロンの見学に行き、個々のサロンとの繋がりを深めています。広報活動として、サロンの様子を「福祉こがねい」や「ぼらんていあこがねい」で紹介しています。

今後はFacebookにも紹介できたらと思っています。サロン見学の様子をまとめたものを少し紹介します。

「こもればカフェ」というサロンは、主な対象者は子ども若者でありまして、不登校気味の子供たちの居場所として始められています。見学した様子ですが、普段はカフェレストランの、雰囲気の良い家です。

当日はちょっと学校に行く気持ちにならなかった中学生と大学生が奥のテーブルで話しが盛り上がっていました。9月1日に見学しています。

「交流会さくら体操」。こちらはどなたでも参加自由という事ですが、年配の方々が来ていました。見学した様子は、接骨医の先生が「今日はココの部分を強化してこの様にします」という説明を最初にして下さるので、とても皆さんやる気を出していました。7月9日見学です。

「よってこ」。こちらは子育て世代を対象にしたサロンです。

見学に行った日も2歳ぐらいの女の子さんとお母さんが来ていて、ヨガの先生がこの時は一緒に参加して、「深呼吸して」「目をつむって」と、とてもゆったりした時間を過ごしていました。

「民謡友の会」。こちらも、どなたでも参加となっています。三味線を弾いてくださる方が2人いて、ぐっと、お座敷処の様な民謡の感じが出ていて、それぞれがリクエストした歌を歌いながら、時間を過ごしていました。こんなサロン見学を、「福祉こがねい」や「ぼらんていあこがねい」、ホームページに引き続き紹介していきます。

そして来年3月25日月曜日に、「サロン全体連絡会」を考えていて、年に一回ですが、45団体のサロンそれぞれに今年度の報告書を提出していただくという事と、来年度また助成金を申し込む方の申し込み方などを説明するのと、この45団体から参加して下さいた皆さんでグループ交流をする中で、やはりサロンによっては参加者が少なかったりゼロだったりすることもあったりして悩んでいるサロンもあるので、このグループ交流などを通して、他のサロンの工夫とか、また悩みなどを話し合える場になればと思っています。以上です。

事務局

次に、「こがねい年越し食支援」についてです。今年も離職であったり勤務の減少で収入が減っている方々や生活に影響が出ている学生のために、年末年始の食支援を実施しております。今年度で4回目の開催となり、令和5年12月15日現在の寄付が100件、1182品の食品を頂いております。社協の階段上がって右手側の円卓の所も活用して、いろいろな食品のご寄付を置いている状態です。

令和5年12月26日、27日、28日でそれらの食品を配布いたします。

つづいて、福祉教育の推進に移ります。

今年度も、秋から冬に掛けて小学校、中学校で「車椅子体験や障害当事者の方の講話」での依頼が増えています。11月27日に本町小で車椅子体験を実施しました。その次に12月6日に前原小でも車椅子体験と高齢者疑似体験を写真の様に実施しました。

令和6年1月15日と19日にも南中学校で車椅子体験と、それから学校からの要望で、障害当事者からの講話、視覚障害の疑似体験をとの依頼を頂きました。（資料修正）

令和6年1月26日には1中で車椅子体験の実施を予定しています。また、急遽、障害当事者からの講話を追加で依頼されていますので、1中の方にも障害当事者の方からの講話を資料に書き足していただくようお願いします。2月8日にも緑小学校の方から車椅子体験を実施する予定です。そのため車椅子がずっと使用されているような状態で、ちょっと車椅子の台数の管理が難しい状況です。福祉教育は以上となります。

最後に「災害ボランティアセンターの運営に関する訓練及び研修」で、令和5年11月22日に東京農工大学小金井キャンパスで市の防災訓練に参加しまして、災害ボランティアセンターの設置訓練を実施いたしました。職員も14名参加し、災害ボランティアセンターはどのようなものかということに参加者の方にお伝えいたしました。

事務局からの説明は以上になるのですが、ふれあい・いきいきサロンの事に関して1点だけ追加で説明があります。

事務局

先ほど、ふれあい・いきいきサロンを説明しましたが、実は今年度、58万7千200円の決定額に対して申請の段階では122万2千400円の申請がありました。例年では、申請が予算内に収まっていたのですが、今回、要綱を変えた事もあって、会場費を千円、活動費を千円と分割して団体に渡していたのですが、一括で2千円という形に変更したことも影響し、倍くらいの申請額となりました。結果、全団体減額という形で今回交付させていただいております。

例えば、例年通りですと、申請すれば下りるという認識だったものが、「え、もう予算無くなったの」という事も、来年度にまた起きると良くないので、例えば4月いっぱい一旦（受付を）閉めるなど、こちらで徹底的に周知をしたうえで申請するのか、あとは、新規の団体をどうするのかという課題もあると思いますので、新規の団体の立ち上げ資金が1万5千円なので、数団体分の予算を別に確保しておいて、新たに立ち上げた団体には別予算で支援するなど、いま、内部で検討しているところです。

ただ今年度に関しては、122万2千400円の申請の内、58万7千200円というように、半分となってしまいましたので、来年はそこを踏まえて、もう少し予算を増やすことを検討しながら、全部予算を増やすという事は、さくらファンドも同様ですが、歳末のお金でやっておりますので、どの様に市民の方や団体の方に効率よく、より良く使って頂けるかというのを内部で検討しながら、次回の運営委員会の時に、こうゆう形で次年度はふれあい・いきいきサロンをやって行こうと思いますという事を報告させて頂きたいと思います。今年度はこのような形で申請があり、団体に結果を出しましたという報告になります。報告は以上になります。

委員長

ありがとうございました。

ただいまの、小金井ボランティア・市民活動センターの令和5年度の事業進捗状況について大変詳しく説明を頂きました。

これについて何かご質問、ご意見があれば頂きたいのですが、いかがですか。

森田委員

コロナ以降で、久しぶりに実際に対面して集まるということになった会もあったと思いますが、何か上手く行かなかったとか、その（久しぶり対面）の影響なのかと思うような点とかありましたでしょうか？もしあったら教えて下さい。以上です。

事務局

団体のお話の中で、オンラインが思ったより良いという声を聞いています。皆さんは色々な団体を掛け持ちしたりして、一日の内で3つ4つ予定が入っている方がいる事もいらっしゃると思います。そうすると会場に行く手間が減る、オンライン会議が増えていきました。その結果、オンラインの中で意見を言う人が特定の人に限られてしまったりとか、今までは顔を見ながら話すつぶやきも拾って下さったりすることがあるのですが、オンラインによって、気軽な発言だったりとか、つぶやきみたいなものを拾ってくれる機会が減ったのが弊害と言いつつ、やっぱりオンラインは楽で、団体の継続性を考えると、どちらを取ったら良いのかという問題はとても大きい、そういった意見が寄せられました。

森田委員

ありがとうございます。

委員長

森田委員が気付かれたことありますか。やはり、ふれあいを求めているような面も結構あるのではと思います。

森田委員

どの集まりも参加者がとても多い。というのと、あとは、大学生、高校生、中学生たちの職場体験が再開となって受け入れたので、大学の先生ともお話したのですが、同じ大学内であっても個人個人で、それぞれの学習の差が大きくなったというか、いままでこんなことまで伝えなければいけなかったかなと思うような点があったりとか、そこでコロナがあったからそんな事でも、という理解で良いのかな、影響なのかなと、今もちょっといろいろ私も勉強している最中なのですが、そんな事を感じたりしました。なので、それぞれ開催した中で、若ければ若い人ほどそういった影響があるように（私）個人としては思っていたのですが、ボラセンでも何かなかったかなと思って（お尋ねしました）。以上です。

委員長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

竹村委員

ご報告ありがとうございました。

直接的に関係無いかもしれないのですが、2点、質問と意見を述べさせていただければと思います。

1点目は、ちょっと（ボラセンの）ホームページを見ながら報告を聞かせて頂いたのですが、精神保健福祉ボランティア養成講座についてホームページにアップして頂いていますが、Googleフォームで作成された申込みページのURLへのハイパーリンクが設定されていないので、リンクされていけばアクセスしやすいのかなと思ったという話を、細かい所ですがちょっと見ていただければと思います。あともう1点。ボランティアの事に関して、ちょっとお聞きしたいのですが、ここ最近になってボランティアしたいって言う方のニーズとか人数とかが、ちょっとずつ増えてきたというか、戻ってきたのかなと感じているのですが、逆にボランティアの受け入れ側がどれだけ回復したのかというのがあって、私も児童福祉施設で働いているのですが、まだまだ、現状、実際に再開出来ているかというところ出来てなかったりとか、逆に、3年、4年と空いてしまって、私たち職員側も実際にボランティアを受け入れるという事を経験してきた職員も減ってきたりとか、あとは、特にここ最近だと、児童分野だとボランティアに限らず、ちょっとそういった子供たちとの不適切な関わりをしてしまった方というのが、中でいたりとか、よその施設にいるとか、みたいな事が業界の中でも回って来て、そこら辺はすごく慎重になってきたというのが、ちょっとダブルパンチであって、なかなかうちはそこまで回復しきれてないというところがあるのですが、小金井市の状況であったりとか、東京ボランティア・市民活動センターにも、ちょっとお聞きしたい部分なので、そのあたりは今どれだけ戻ってきたりとか、また別の課題が出てきたりとか、またどんな感じなのかというのをお聞きできればと思います。

事務局

精神保健福祉ボランティアのリンクに関しては、ハイパーリンクにするというところは抜けていた所でした。もう1点の、コロナ禍のボランティア受け入れの状況ですが、「夏の体験ボランティア」のところで少し説明させていただいたのですが、受け入れ団体の方ですが、今年は32団体より受け入れを頂いていたのですが、去年はその半分くらいで、この「夏の体験ボランティア」の事例を見るだけでも、受け入れ施設は増えています。保育園や特養の施設が、去年と比べてかなり受け入れを増やしている現状ですので、かなりボランティアの受け入れは増えているという印象です。以上です。

委員長

あとは他になにか、ご質問、ご意見があれば頂きたいです。

榎本委員

都内全体の「夏の体験ボランティア」については、キャンペーンに参加した箇所は62市町村中47箇所と、かなり増えてきた状況です。コロナを経て小金井も「お便りボランティア」という形でやられていると思いますが、対面ボランティアのみだけでなく、お家で出来るボランティア活動という形も増えてきたという状況として、いろいろな参加の仕方が出てきたと思います。

ただ、コロナだけではなくて、例えば、今年の夏はすごく暑かったため、熱中症警戒アラートが出たりしました。それによって、例えば、公園の美化をやっている団体だったり、ゴミ拾いをやっているような団体の活動に対して安全性をとると、なかなか子供たちを参加させられない状況があったりとか、特に高齢者向け施設はまだコロナの影響を受けているところが多くて、なかなか対面ボランティアの受け入れは出来なくて、特に入所は難しいけれども、なんとか、デイのほうで数人だったら受け入れるという形で、以前よりもボランティアの参加受け入れ人数を減らして許可して頂いた所もいくつかはあったと思います。

まだちょっと影響は続きそうとは思っているのですが、家で何か作ったりとか、家から何か参加したりという方法も含めて、いろいろな、多様なボランティアの参加の仕方、受け入れの仕方というのを考えて行く必要があると思っています。

ところで、福祉マルシェですが、私たちもチラシを見ながら、福祉まつりじゃなくてマルシェと言っているところが、ちょっとオシャレ感があって、若い人でもちょっと行ってみようかなと思えるネーミングだと、ネーミングの所がとても好評と、そんなお話が出ていました。

私は別の事業が入っていてこの日は行けなかったのですが、近くに住んでいる職員が直接見に行ったようです。実際に行った所、入口のところの今川焼が美味しそうだったので買いましたというお話がありまして、もうちょっと、建物の中で何をやっているところなのか、社協ってどういう所なのかと、折角来て貰ったのだから紹介できると、より良いのではないかというような感想を貰ってきています。以上です。

森田委員

車椅子体験なのですが、車椅子体験との、連続ででもいいのですけれども、もう一歩先に進んだというか、それ自体を体験するというその先の事に繋がるような講座を子供たちに届けて頂けたら良いなと思います。以上です。

委員長

今の話は検討して、参考にされるという事でよろしいですね。

事務局

車椅子体験（の希望）がかなり増えており、車椅子の台数も職員もかなり出ずっぱりになっているので、もっとその他にプラスαで障害について学ぶ機会だとか、当事者の方の

お話と言う所をコーディネートして、もっと学校で増やして行きたいとこちらでも考えていまして、たまたま市内にお住いの方に、武蔵野の方で心の病についての学ぶ機会を小中学校でやってきたという事で話しをいただいて、その活動をしていたNPOが武蔵野にあり、そこと今お話していて、先ほどお話しした第一中学校でお話したら、ぜひやって貰いたいという事で、いま学校とそのNPOとで、精神障害というものを学ぶ機会を作っていくと話しています。

1月30日と2月2日に分かれて中学校一年生のお子さんに学んでいただく、当事者の方も来てくれるという事だったので、決してこころの病というものが怖いものじゃないというか、小さい頃から差別などが無いように、「普通の事なんだ、誰にでもある事なんだ」という事を学んで頂きたいということで進めています。来年もそのような、心の病とか障害について学ぶ機会を増やしていきたいなと思っていますところですよ。以上です。

事務局

補足します。今年、職員2名で車椅子体験に行っているのですが、その前に学校に行って打合せをする時に、最初の10分は社協スタッフから車椅子の説明も合わせてお話をさせて下さいと伝え、その時に使用者と介助する方のコミュニケーションを取るという事がとても大事ということ、乗ってる方は物では無くて人間である、まず最初に目線を下げて自己紹介「私は何々です。」とフルネームで伝え「よろしく願います。」ということが大事です。車椅子を動かす時も、右と左に道が分かれている時は、「どちらに曲がりますか？」と必ず声を掛けて、乗っている方の意思を尊重するという事とか、乗っている方は足が使えない事。「みんなは今、ちょっと前に倒れそうになったら足で踏ん張れるけれども、実際には足で踏ん張れない人が乗っている訳ですから、本当に今日乗ってみてその気持ちを経験してみましよう。」と、ちょっと最初にお話をして、それから車椅子を使って貰うようにしました。あと車椅子は社協で今実際に使っているもので、皆さんに利用してもらっている車椅子ですけれども、「これはご寄付で、亡くなられたお母様の車椅子だったりして、こうやって来ているものなので大切にしましょう。」と、そういうお話をしっかりしてから、体験してもらおうと思います。

委員長

ありがとうございました。他にいかがですか。

委員長

私の方から一点ですね。市役所の課長も来られているので一点伺いたいのですが。先ほどふれあい・いきいきサロンについて小早川係長から、非常にやりたいという希望者が多くて、その希望に叶えられるに半額で収めざるを得なかったという話があったのですが、この中身を見ると、さくら体操とか居場所は、いわば介護保険の関連で2015年度から広がってきた「日常生活支援総合事業」、地域支援事業の中で地域の専門職だけでなく

て地域住民を巻きこんで、地域住民の場所づくりとか支え合いとかというのをやり出しているというのが、ひとつの市町村の大きな特徴になってきています。そういう意味では、高齢者だけではないのですが、高齢者にとっても居場所づくりとか、それからさくら体操と言うのは介護予防に繋がる話ですから、そういう、市が管轄している地域支援事業とのすり合わせをしてもらって、できる事ならば、予算的にもおそらく、地域支援事業はどのくらいの単位かわかりませんが、億単位くらいの事業を展開されていると思うので、もう少しそこらへんで何とかならないのかなと言うふうに聞いていたのですが、いずれにしても市の事業とのすり合わせをもう少しやって頂ければという感じを受けたのですが、いかがでしょうか。

根本委員

地域福祉課長の根本と申します。

直接の所管は介護福祉課という所になりますが、地域福祉という事で所管しておりますので、こういった居場所事業については、丁度今年度に地域福祉計画、また介護保険法の計画も改訂する所で、こういった居場所の事業の推進という事をやっています。予算云々につきましては、また、現時点ではハッキリした事は申し上げられませんが、こういった、社協との連携という事は、今後、より推進して行こうと計画しておりますので、今後も連携して取り組んでいきたいと思っております。

委員長

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

<議題2 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について>

委員長

それでは、議題2に移らさせていただきます。小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について事務局よりお願いします。

事務局

小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について報告します。

準備室は、平成20年作成の小金井市協働推進基本方針に基づいて、市民活動団体と行政、または市民活動団体間の協働に関して、ご覧の7業務を行っています。これらの業務について令和5年の7月から11月現在について報告します。なお、お手元の資料には、4月から情報も記載されており、前回の運営委員会で報告しましたので、今回は7月から11月が中心となります。

資料のトピックスについては主だったものを記載しています。相談コーディネーターは、8月、車椅子利用者の居場所について市民からの相談がありました。こちらは、電話での問い合わせでして、車椅子ユーザーが、車椅子のまま参加出来る芸術活動を希望され

ていました。市内で芸術活動されている団体がありますが、会場施設の設備での対応ができない、この会場は大丈夫でも練習時の会場はだめなど毎回参加出来ないとなり、残念ながら市内ではコーディネートする事が出来ませんでした。ですが東京ボランティアセンターから毎月送っていただく他市の情報誌の中で、良さそうなものがあったという記憶があり、そちらを調べた結果、中野の東京アートサポートセンターRights（ライツ）、障害者の芸術文化を応援している団体を見つけました。このように市内でコーディネートできなくても近隣他市まで目を向けて紹介できるようにと、心掛けています。

10月、「放課後カフェ」の団体紹介について。こちらは他市からの申し入れがありました。小金井市では緑中学校の「放課後カフェ」があります。こちらは何年もやっている居場所として大先輩の団体です。こちらを見学したいと、他市のボランティアセンターより連絡がありました。その仲介をしまして、先方の大人4名と、私とで計5名の大人が一部屋に入って、子どもたちがどのように過ごしているのかを見学しました。子どもたちは本当に毎月楽しみにしている居場所として出来上がっていて、とてもリラックスし、本当の意味で、「ここはカフェなんだな」という感じで、それぞれの想いで過ごしている、そんな居心地のいい空間が広がっていました。最終的に、その見学をされた他市ボランティアセンターの方々が「この取り組みはとてもいい」という事で、3月の大きなシンポジウムがあるので、そちらにぜひ登壇して活動紹介して欲しい、という事で次に繋がり、小金井市の取り組みが他市で紹介される事になりました。

主だった紹介は以上になります。

次の、1. 相談コーディネート業務としては、月毎の相談件数について、4月5月はどうしても春先という事で新しく何かをやりたい団体の相談が多いです。9月10月になると、その4月5月で温めた案を今度は9月10月の気候の良い時に秋のイベントとして開催される方が多いので、実際にやってみて、「ちょっと困った事があったぞ」「お客さんが意外と集まっていないので広報拡散・どこに声を掛けたらいいのか」のようなアドバイスが欲しいと、そう言った事が多くあります。年間通していろいろな相談がありますが、やはり地域性とか、季節性のようなものがあるように窓口では感じています。

連絡手段については、資料は延べ件数で書いておりますが、一つの案件に対して窓口や電話やEメールなどいろんな形を使っております。ご覧の通りFAXは今の時代、なかなか使われる方はいないようで、ここ数年ゼロになっております。

次のページ、情報の収集になります。情報の収集には3種類ありまして、市内の団体へ訪問してお話を聞く、他市の協働状況の調査をする、そして資料の収集です。

団体には、直接行ってお話を聞くという機会はなかなか無いのですが、窓口に来た時にはできるだけ声を掛ける様にしています。現場に行けなくても出来ることという事を意識しています。

他市協働の状況に関しては、特に調査依頼が無く、計画を立てていないのですが、年明けに他市訪問を考えます。

資料収集、こちら実際には多くの資料をいただいています。その中でも特に注目して見たのが、この件数となっています。先ほどの車椅子ユーザーの方のお話もこういった情報収集を日常から行っている事で、次に繋がったと思っています。それに関しては、東京ボランティア・市民活動センターで情報をまとめ、必要な情報を小金井社協に毎月送って下さっているのです、今後、他市の事例や、「ここまでやりたいのですが、似たような事やってる方いませんか」と問合せがある時には、準備室として資料を揃えていますので、何かありましたらお声がけください。

次に行きます。情報の発信については、皆様のお手元にある、こちら「ボランティアこがねい」には毎月載せています。その中に市民応援ニュースという枠を設けていまして、市民の方にも情報を発信しています。2番は、ブログによる情報発信です。こちらは、月別に書いてあります。

市民協働推進について、コミュニティ文化課とは随時電話、メールなどで実際にお会いして相談しながら前に進めております。

行政の協力のところ、6番になります。こちら7ページから8ページに向かって、毎月どんなことをしたのか書いてあります。こちらは行政提案ですとか、NPO法人派遣研修、そのような事が多く、たまに他市からの質問といった事にも準備室の方で対応しております。

7番目の講習会、研修に関してなのですが、こちら、準備室の職員の新任研修という事もあって、研修参加回が例年より多くなっています。

8番、その他。こちらは、準備室の方で頂いた情報で特に質問などが来ている状況では無いのですが、普段の活動者さんのお話を聞いて、こういう情報というのがあったら何かの足しになったりとか、参考になるのではないのかというのを子ども食堂連絡会や子育て・子育て支援団体の皆さんの所へ随時情報提供をさせて頂いているというものがこちらです。

以上で、今年度の11月までの活動報告を終わります。

委員長

ありがとうございました。ただいまの小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について何か、ご質問ございますか？（委員からの質問無し）

この件に関しては、質疑等を終了させていただきます。

<議題3 令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画（案）について>

委員長

議題3、令和6年度小金井ボランティア・市民活動センター事業計画案について事務局よりお願いします。

事務局

令和6年度の基本方針なのですが、こちらの今現在の社会ですけれど、経済的な成長をとげて我々の生活を保障するための法的な整備がなされている一方で、企業による営利の活動や、行政による法的な仕組みだけでは、我々の暮らしの中での課題を解決する事が難しいという状況が生じています。そのような課題の解決のためには、企業や行政ではない、非営利活動の分野が非常に求められている状況にあります。

その中で、小金井ボランティア・市民活動センターでは、地域におけるさまざまな課題解決に向けて、非営利活動団体（市民活動団体またはボランティア団体）やボランティアグループ、任意の団体を含むのですが、それらの団体の活動支援を行うための中間支援組織としての事業を運営するとともに、地域の課題を解決して行くための地域福祉活動を実施かつ推進していきたいと思えます。

また、小金井ボランティア・市民活動センターと小金井市市民協働支援センター、今、準備室なのですが、こちらの方との業務内容の調整を行い、小金井ボランティア・市民活動センターの業務を精査していきます。

また、福祉総合相談窓口と連携を密にし、市民の方からの様々なニーズに円滑に答えられるように対応していきます。といったのが基本方針の主なところになります。

事業計画は、主な事業について報告と説明をしたいと思います。

先ほどの進捗のところでも報告しましたが、来年度も団体交流会を実施していきたいと思っています。市民活動団体の交流を計る場、そこが出会いの場になったり、いろいろなマッチングをしたりとか、コラボしていろいろな事業、いろいろな事が広がるような事を目的として実施したいと思います。

来年度は今回参加された方々が、こうゆうのをやりたいという希望やいろいろな意見を頂いたので、一緒に検討していきたいと思っています。

主な所では、「子ども・若者支援事業」のほうも、令和5年度に引き続き令和6年度も推進していきたい事業です。子ども・若者支援の理解を深め、地域の支え合いを考える目的で、また講座を開催していきたいと思っております。今回は連続講座として、だいたい3回位の講座を考えています。令和5年度に開催した時に、いろいろな参加団体から、やっぱり、もう少しみんなで話し合う時間が欲しいと、団体同士でいろいろな活動を考えて、子どもたち、若者たちのために何かしたいという希望がたくさんあったので、そのようなものをテーマにして、皆さんの意見を聞きながら、何か新たなものを作れるような講座にしていきたいと思っています。

広報・啓発活動という所では、ITによる情報の発信という部分ですけれど、先ほどのふれあい・いきいきサロンの報告の中でもお伝えしましたが、ホームページとかFacebookなどもボランティアセンターで運営しているので、来年度はもう少し活用し、サロンを見学に行ったり取材に行った時はFacebook等で報告して、ボランティア体験なども事業報告で載せていければいいと考えています。

主な所としては、次に「ディスレクシア啓発事業」を挙げます。ディスレクシアなのですが、令和4年度から令和5年度に掛けて「ディスレクシアを知る」という講座を開催してきました。参加している方は親が多かったのですけれど、その方達から今後交流の場を設けて欲しいという事で交流会を数回に渡って開催し、その中で団体が設立されました。令和6年度も講座を開催するとともに、こういった団体の応援をしながら、裾野を広げていきたいと考えています。

次、「小金井市社協福祉マルシェ」なのですが、これも令和5年度に初めて開催する事が出来、令和6年度に向けて少し強化していきたいと思っています。

小金井ボランティア・市民活動センターや社協の活動のPRを、もうちょっとしてはどうかという事で、意見を頂きましたが、是非、来年度に向けてそういった活動をPRできるような場としても進めていきたいと思います。現状、社協の駐車場の所でやっていますが、もう少し別の場所での開催なども出来たらいいという事で、検討していきたいと思います。

次に、大規模災害対策に関する計画ですが、こちら、いつ災害が起きるかわからないという状況で、災害ボランティアセンターの運営、設置訓練も毎年やっていますが、また強化していきたいと思っています。

「災害ボランティアミーティング」、こちら、コロナ禍の中で数年開催する事が出来なかったのですが、令和4年からまた再開しまして、今年度も一応、予定しております。来年度に向けても災害ボランティアミーティングを実施して、団体とか、関係機関、そして外部団体の方の活動も皆さんと一緒に考えて、ネットワークを作っていけたらいいなと思っています。ちょうど先日、東京ボランティア・市民活動センターの災害の「居場所×防災講座」という講座に参加しましたが、地域の居場所をやっている方達、中でも災害と言うのを考えながら活動をしているという話を聞くことができました。災害があった時非常事態であるので、一か月ぐらいはバタバタしているのですが、その後は、地域の中での皆さんとの繋がりというのが非常に大事になって来るといような話を、色々な所で活動をされている方から何う事ができましたので、ふれあい・いきいきサロンの活動をしているのですが、皆さんと一緒に災害の事も考えながら、ボランティアのほうを考えていきたいと思っています。

以上になります。

委員長

ただいまの、小金井ボランティア・市民活動センターの事業計画案について、何か質問があれば伺いたいのですが、いかがですか。何でも結構ですが。

委員長

では私から。社協、小金井ボランティア・市民活動センターは熱心にいろいろな講座を開いていて、特に担い手養成、ボランティア養成は本当によくやっていると思うのですが、これは、どこの社協も、どこの市もひとつの悩みなのですが、そういう養成はするけれども、養成した後は活用をどうしていくのかというのが、ひとつの大きな課題なのです。だからサポーターとか、そういうボランティアとか講習を受けた方々が育っていますが、それを（育った方達が）活動する受け皿づくりを、社協というより今の行政がタイアップして協力してやっていく以外に無いと思うのですが、その点はいかがでしょう。

事務局

確かに。精神保健福祉ボランティア養成講座療法的音楽のボランティア養成講座など、いろいろな講座を実施していますが、修了後もやはり活動に繋がるような面で進めていきたいと思えます。その時の講座の参加者の雰囲気にもよるのですけれども、講座修了後にフォローアップという事で集まりを開催したりして、ボランティア活動を考えるという場を作ったりという時もあります。最近では出来ていないのですけれども、以前はという事で、ボランティアサークルなどがいくつかできて、市内の活動に繋がるという事があります。コロナ禍で講座の開催も中々出来ずに、昨年からは色々な講座も復活して実施しておりますので、今年度もこれから精神保健福祉ボランティア養成講座もありますので、その修了後の活動をぜひ進めていきたいと思っていますところ です。

事務局

今日、チラシをお手元に配りしました精神保健福祉ボランティア養成講座ですが、前回までと内容を少しだけ変えていて、最終回のときに福祉総合相談窓口の職員に来てもらう事を、今年度から考えています。というのが実際の福祉総合相談窓口の方で、精神障害の方と接する機会があり、そのような方の居場所で、そんなものを欲しいみたいな意見が職員の方から出て、それを基にグループワーク等で「じゃみんなで何ができるんだろう」という形で持っていこうかなというのが一つと、今年度のファシリテータ養成講座が丁度先週、前々回から市内のグループ、市内の人達だけで何をしようかという話になっているのですけれども、なかなかまとまらない中で、2団体に分かれ、ひとつの中に防災という意見が出たので「じゃ街歩きを一緒にやりましょう」と、いままでは町会などと職員が防災街歩きをやっていたのですけれども、そういう市民の方が今度、街歩きのリーダーといった方を養成しながら、職員だけではなくて、そういった方達も地域で街歩きをいっしょにや

って頂けるような、何かの受け皿を今後も考えていこうかなと思っています。進捗は今の2点だけなのですが、今後もそのように考えながらやっていけたらと思っています。

委員長

よろしく申し上げます。他に何か、ご質問ご意見はありますか。

榎本委員

さっき、Facebookの発信を効果的に活用するという事で、ITによる情報発信でFacebookのところから、これからいろいろ発信していきたいという事だったのですけれど、ホームページをサッと見る限り、すぐ飛べるバナーですとか、リンクがちょっと（足りなくて）どこから行くのかちょっと直感的に分からなかったのも、もしかしたらそこに（Facebookへのリンクが）あると、より辿り着いてくれる人が増えるのではないかと考えています。ちなみに、東京ボランティア・市民活動センターでは、X（旧ツイッター）とInstagramと、FacebookとYouTubeをやっているのですが、いまのところ12ヶ月以上連続でフォロワーが増えている状況なので、やはり見ている人はいるのだなと思っていますので、ぜひいろいろなツールで発信されて行くと、（情報を受取る）人は増えるんじゃないかと思います。よろしく申し上げます。

委員長

他にいかがですか。

森田委員

ボランティア養成の事で、全部繋がっていると思うのですが、今年の夏に、たまたまある日のその瞬間、私の所でバイトをしている大学生数名と、フィールドスタディで来ている学生、大学生、中学生や小学生が15名ぐらいて、その中の中学生がようやく外にも出られるようになったと言うような状況の子どもだったのですね。フィールドスタディで来ていた学生からバリアフリー、「また明日」のバリアフリーはどのようになっているかという課題を持って、研究したいという事の発言をきっかけに、ちょっとワークショップをやろうかなというように思って、その15名とやりとりをしたのですが。そもそもバリアフリーって何なのか。という事で、その時に小学校の頃から「また明日」に来ていた、今は大学生となり、「また明日」のスタッフとしてアルバイトをしている子から「そもそも車椅子自体もバリアーになる可能性がある。人との隔たりとして機能してしまうのではないか。人に対してそれは、全く違う使われ方になる」という発言が出ていたのです。となると、ボランティアをするという、その態度ってどういうものなのかという所まで、やり取りの中で深く、進んで行ったのです。さきほど、車椅子を中学校で体験と言うのはとても見ていると分かりやすいので、やっぱり学校も望むと思うのです。先生方もそれで体験のお時間を持たたという事になりがちなのですが、以外に今、大学生になって中学の車椅子体験ボランティアがどうだったか振り返ってみると、もう、子供達が

本当によく考えて、その先を深めていたのです。そうなので、彼らその15名とセッションした時に感じたのは、問われているのは大人のほうだと思ひまして。あと、そのファシリテーションして行く事や、私たちが彼らから学んで行こうとする、その態度とか、そのようなことを凄く突きつけられたので、授業の中のひとつのコマでやったとしても、物凄くその影響は大きいので、それを想って参加して、その時間を持って頂けたらと思ひます。以上です。

委員長

やはり、いかがですか。

Zoomの松嶋委員は、今までの事で結構ですので意見、質問があればどうぞ。

松嶋委員

森田委員もメンバーですけれど、防災の事なのですが、いま南中学校を中心にその地域の自治会や、南中学校の職員の方も入って避難所運営マニュアルを作成中です。このように、小金井市の中であちらこちらでポツポツと活動ができていて、統合されていないのですけれど、まあ、統合するとなると市の登場となって、それはまた手数が増えて余計に進まなくなってしまうので、市民中心の活動は私は歓迎しているのですが、その時に、例えば災害ボランティアミーティングに来た人でその地域の人、もちろん許可取ってですけれど、名簿とか頂けたら、例えばさっきの養成講座などの後の受け入れとか続きが無いみたいな話もありましたけれど、実際にもう現場に来ていただける、防災マニュアルを作る事から参加してもらうなどのできるの、小金井市のあちらこちらでいろいろな活動をしている全体をまとめるのが、市じゃなくてボラセンだと丁度具合がいいのかなと私は思っていて、そういう受け皿的な事も必要ですけど、全体のコーディネートみたいな、別に取り仕切らなくてもいいので、こうゆう所に来ると情報が、防災の情報だったらこうゆう所で手に入るよ。とか。防災のボランティアをやりたかったらここら辺りの人が詳しいよと、繋げる役目を期待したいと思ひます。別に来年の事業計画に盛り込んでほしい訳じゃないのですけれど、そんな事を頭に置いて、活動して頂けるといい具合になるのかなと感じました。以上です。

委員長

はい、ありがとうございました。

何か、事務局からひと言お願いします。

事務局

「災害ボランティアミーティング」ですけれど、ぜひ、ご意見を参考にさせて頂き、いろいろな地域の避難所の運営協議会とか、ボランティア団体とか、福祉団体、サロンとか、そのようなところの方に参加してもらいながら、名簿を連携できるような、みんなで連絡とり合ったりできるようなものを作っていけたらいいかなと、今思ひました。丁度、

小金井市の協働講演会という事で、コミュニティ文化課とNPO法人連絡会と、社協も共催なのですけれども、災害に備えた緩やかな連携という事で、当ボラの加納さんにお話ししていただくのですけれども、1月26日に実施する予定であります。

こういったところで、ここは避難所運営協議会の方達にも来て頂いて、いろいろなお話をこの場で聞く事が出来ますので、その中で地域のいろいろなボランティア団体、学校やいろいろなところと連携する事を考えていきたいと思いました。ぜひこちらもお助けいただければ有難いです。周知の方もよろしく願います。はい。以上です。

委員長

ありがとうございました。何か、市の方から付け加える事はございますか。

よろしいですか、この件に関しては。特に無ければ、議題4に移らせていただきます。

<議題4 小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会運営委員任期について>

※第9期ボランティア・市民活動センター運営委員会運営委員任期は令和4年1月24日から令和6年3月31日まで

委員長

小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会、運営委員任期について事務局より願います。

事務局

実は、第9期運営委員の任期が令和6年3月31日に変更になっています。以前は1月23日までという事で、1月に任期が切れて3月の運営委員会の前に「また願います」という形をとらせて頂いていたのですが、前回から3月31日という事になりますので、次回の運営委員の任期は令和6年の4月1日からという形に変更になりますので、そこだけご了承いただければと思います。以上になります。

委員長

この件については何か、ご質問はございませんね。よろしいですね。

それでは議題5その他について。

<議題5 その他>

委員長

これまでのところでも結構なのですが、何かご意見ございましたら、頂きたいのですがいかがでございましょうか。（委員からの意見無し）

最後に何か、川畑副委員長。

副委員長

小金井ボランティア・市民活動センターの方達には、いろいろ企画をしていて、小金井のボランティアって凄くなって最近思っています。また、社協のお話がありましたよう

に、どこかでまとめる所、しっかりと周知して頂くという事が大事なかなと思っており
ますので、今後そういう形で持って行っていただければと思います。宜しく
お願い致します。

委員長

よろしいでしょうか。なにかございましたら。（委員からの質問無し）

東京ボランティア・市民活動センターから頂いた資料について、よろしければ榎本委員
から説明を、いただければありがたいです。

榎本委員

オンラインだと見る事ができなくて申し訳ないです。

（榎本委員は東京ボランティア・市民活動センターが主催・共催しているフォーラム等
を紹介した）

まず、「市民社会のボランティアフォーラムTOKYO2024」について、今年は、
希望ある未来を作るというテーマで2月9日、10日、11日の3日間開催して
おります。場所は東京ボランティア・市民活動センターのある、飯田橋の
セントラルプラザですとか、他にもフィールドワークの予定があるものも
ありますので、ぜひこちら、皆さんにも来て頂けたらと思いますし、ま
わりの社会課題とか市民社会という所に興味をお持ちの方にぜひ、お
勧めいただくと嬉しいです。実はですね、ちょっとうっすら内緒情報、
でも無いのですが、SNSの中に、うちのSNSを見ていただくと、その中
に割引クーポンのコードが隠されておまして、12月末まで使えるん
ですけども、SNSを見た方だけがわかる割引クーポンというのが存在
しますので、ご参加考えている方はですね、ぜひそういったクーポンも
使って頂ければと思います。今年は3分科会以上参加される方は3千
円均一という事で、いままでよりお安く参加出来る様になりましたので、
ぜひお越しいただくと嬉しいです。それからもうひとつ。

来年の1月11日に「食事サービスを考えるつどい」というものを開催する
予定です。こちらはですね。東京食事サービス連絡会という1980年ぐ
らいから活動されている、すごく活動歴の長い団体があり、高齢者と
食というところを、配食サービスとかやっている団体の集まりなので
ですけども、そこについてやっていますので、もし、活動団体をお知
りの方がいらっしゃいましたら紹介して下さい。

1月27日の「東京力×無限大」という地域福祉フォーラムについては、
久々に会場開催になるという事で、ちょっと他部署の情報なのでうっ
すら紹介しておきます。

次、2月の23日、24日の2日間、「市民の参加と協働を進めるコー
ディネーション研究会」こちらも、東京ボランティア・市民活動セン
ターで開催するんですけども、こちらは、日本ボランティアコーディ
ネーター協会というところが主催のコーディネーション研究集会のお
知らせになります。こちらはですね、さっきのボランティアフォーラムの

方は市民の方に広く参加して下さいねというものなのですが、2月の23、24日どちらかというコーディネーションに関わっている方とか、みなさんのような、ちょっと専門分野というか専門的に関わる事があるよ、という方にお勧めの研究集会になっておりますので、こちらもぜひご参加ください。私からは以上です。ボランティアフォーラムは特にご参加を待ちしております。

委員長

ありがとうございました。

それでは、以上を持ちまして、令和5年度第2回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了します。

次回令和5年度第3回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会の日程は、副委員長および事務局と調整し連絡します。本日はどうもありがとうございました。

<閉会>

以下 余白